

平成23年3月11日、日本は地震と大津波に襲われた!

東北関東大震災で、私たちが思ったこと。

このたびの震災は、子ども記者にとってはもろろん生まれて初めて体験する大災害です。

毎日、テレビや新聞で惨状を目にし、みな心を痛めていました。

もし自分たちが災害にあつたらどう立ち向かうのか。いま、苦しんでいる人たちに、自分たちに何ができるのか。親子で話し合った家庭も多いことと思います。そういう声を記録してみました。

●柏小5年、男子

◎この震災で思ったこと・気づいたこと

千葉のほうに友達がいいます。水道水が飲めない。とニュースで聞いて、とても大変そうだなと思いました。

◎被災者のためにしたいこと

被災者のために節電をしたいです。

●柏小5年 三平望美

◎この震災で思ったこと

鉄で作っている建物も流されてしまったのを見て、鉄は水に弱いんだとわかりました。

●柏小5年 三上佳泰

◎この震災で思ったこと・気づいたこと

地震のとき、家の二階で立っていました。グラグラとたてでゆれて、その後よこゆれで、長くゆれました。車に酔ったようになりました。

●柏小5年、男子

◎この震災で思ったこと・気づいたこと

大津波がおそってきて、鉄砲水のようにして町を襲っていったり、流された家が燃えたりするのを見てゾッとしました。鳥肌がたちました。

◎被災者のためにしたいこと

ご飯もおなかいっぱい食べられて楽しく暮らせるのが、当たり前ではないんだということがわかった。

●柏小5年 三上佳珠

◎被災者のためにしたいこと

東京は節電をして、北海道は節灯油をしたらいい。あと非常用防災バツクを作りたいです。

●柏小5年 三上佳珠

◎この震災で思ったこと・気づいたこと

こんなに大きな地震は初めてでした。被害を受けた地域の学校では、ちゃんとした卒業式ができなくても、参加している小学生がうれしそうにしているのを見て、みんなは強いなと思いました。

●恵庭中2年 m・m

◎この震災で思ったこと・気づいたこと

「いま食べたいもの」の絵にサラダやグラタンを描いている人がいて、心をうたれました。配られているご飯をみて、もしかしら私もあるかもあなかもいなくて、今のようにならなかつたかと思ふと悲しくなりました。

◎被災者のためにしたいこと

自然災害の恐ろしさは、簡単に超えてしまうというところを改めて感じさせられた。

●柏小5年 小松瑞季

◎この震災で思ったこと・気づいたこと

今回の震災のテレビを見て、全部チャンネルが地震のニュースだったので、東日本はひどい災害だったんだなと思いました。

●柏小5年 盛亜美香

◎この震災で思ったこと・気づいたこと

もし私だったら、親が津波で行方不明になったら、家も流されて、友達も無事かわからなくなったらどんなに辛いかわからない。想像もできません。自分がどんなに幸せな生活をしているか、良く分かりました。

●柏小5年 三上泰実

◎この震災で思ったこと・気づいたこと

世界が日本のために団結し始めているのに、日本はまるでバラバラみたいだ。ニュースを見ててそう思います。まずは落ち着いて行動するのが一番だとよくわかりました。よく考えて、私にできることを、ひとつずつやっていきたいです。

◎被災者のためにしたいこと

「ぼくにできること」

●東日本巨大地震」で家や家族を失った人達に、何ができるか考える。

◎この震災で思ったこと・気づいたこと

まずは自分の家でエコーな生活を心がけた。少しだけ募金もしました。

●恵庭中2年 三上泰実

◎この震災で思ったこと・気づいたこと

ある日、ボランティアさんが被災地で子ども達の遊び相手になつている記事を読みました。実はぼくは冬休みや春休みなどを利用して、市内の介護老人保健施設でボランティアをしています。

●柏小5年 男子

◎この震災で思ったこと・気づいたこと

地震の時はびっくりしました。放射能がだんだんこちらにもきていると聞いて恐くなりました。

◎被災者のためにしたいこと

そして向こうでがんばっている自衛隊や民間の人たちを、せいっぱい応援します。

●小松瑞季

編集会議に参加してみよう!

新聞作りは編集会議からはじまります。どんなことを取材するか、どんなアンケートを取るかなど、どんな紙面構成にしていくなか、みんなで話し合います。予約はいりませんので、気軽に来てくださいね。

5/7(土) ■時間: 15:00~ ■場所: 恵庭RBパーク3階

(都合が悪くて会議に出られなくても、新聞作りには参加できます。詳しくは編集部まで連絡してください。)

⑤写真撮影、イラストやカットを描く
記事に使うカットを描いたり、写真を撮ったりして、魅力的な紙面にしてみよう!ほかに校正係も募集中!

新聞作りに参加してみよう!

記者として参加するほかにも、誰でも、いろいろな場面で活躍できます。自分のやりたい役割を選んで、新聞作りに参加しませんか?

①子ども記者/親子記者として

まちに出て、または学校で、インタビューしたり体験をしたりして記事を書きます。新しい人との出会いや、発見があって毎回ワクワクです!



③身近なニュースの通信員に

「めずらしい花が咲いてるよ」「近所の猫に子どもが生まれたよ」「友だちが表彰されたよ」など、自分の周りの情報を発見して編集部知らせる役割です。

②アンケート取り隊にチャレンジ!

みんなで1つのテーマを決めて、学校でアンケートを取ってみよう!

④たとえば読書感想文が得意なら、

自分が読んで感動した本、面白かった本などを、たくさんの人に知らせてみよう!